

「曼茶羅」
三千年に度々くち伝えられる幻の花、仏教用語で仏心を悟ること。この詩集では被爆により
亡くなった魂を曼陀羅として表現している。

長崎の被爆により命を落とした幾十万の魂たちを、い
かなる名で呼ばよいのだろうか。いかなる名詞を、いか
なる固有の呼び名を与えれば、彼ら英霊を悼むにふさ
わしいのか。無垢の幼子たちまで罪のないまま、非命に倒
れた英霊を、英魂たちを慰める追慕と慰霊の思いをこ
め、私は「曼茶羅」という象徴を選んだ。
〔長崎、長崎の曼茶羅よ〕詩的メモより抜粋



(2024年6月 韓国釜山自宅にて撮影)

金光子(キム・カンジャ 雅号・雪津)氏の略歴

1943年、長崎市大浦で出生。1945年8月9日、2歳の時に同市稲佐町で被爆し、同年9月に両親とともに帰国。全南光州大学校文
理科大学卒業。釜山女子大学校社会科学院講師を歴任(教育歴38年)。主な作品に『海雲台 アリラン』、『恋しさの美学』、『臥
牛山の里』など多数。『長崎、長崎の曼茶羅よ』(長崎文献社、2025年7月)は14番目の詩集。受賞歴として第23回尹東柱文学賞、
第33回国際ペン文学賞、大韓民国郷土文学賞、第61回釜山広域市文化賞(文学)ほか。釜山詩人協会理事長、国際ペン韓国
本部理事を歴任し、韓国原爆被害者協会代議員、『忘れられない、あの日々の証言集』(2024年12月刊行)編集主幹。

文善英(ムン・ソニョン)氏の略歴

韓国東亜大学校教養学部教授。国立釜山大学校国語国文学科卒業後、同大学院で博士号取得(専攻・国文学・現代
詩)。詩人、文学評論家としても活動。1990年に韓国文学芸術新人賞。

著書には『聞き慣れた音』(詩集)、『現代詩と文化意識』、『韓国戦争と詩』のほか、共著として『韓国現代詩とパロディ』、
『韓国叙述詩の詩学』、『韓国現代文学の性と売春』、『体の歴史と文学』。

長崎大学 文教キャンパス (長崎県長崎市文教町1-14)



会場

文教スカイホール

(グローバル教育・学生支援棟4階)

◆ 長崎空港から ◆

県営バス「長崎空港4番のりば」

↓
(昭和町・浦上経由長崎方面行き)

↓
「長大東門前」下車(約60分)

◆ 電車 ◆

JR「長崎駅」下車後、バスまたは路面電車利用

◆ 路面電車 ◆

「長崎駅前」

↓
(赤迫行き)

↓
「長崎大学」下車(約20分)

◆ バス ◆

長崎バス「長崎駅前」

↓
(1番系統「溝川」、「上床」、「上横尾」行き)

↓
「長崎大学前」下車(約15分)